





拾遺和歌集卷第一



春

平家朝臣の歌集の巻の目録

壬生忠岑

<sup>抄</sup> 春の日のあけぬるを 野に出づるを 約の者

兼平四年中宮乃賀の 侍の時の屏風

紀文轉

<sup>抄</sup> 春の日のあけぬるを 野に出づるを 約の者

兼平四年中宮乃賀の 侍の時の屏風

平家朝臣の歌集の巻の目録

冷泉院東宮の 侍の時の屏風

源重之

春の日のあけぬるを 野に出づるを 約の者

兼平四年中宮乃賀の 侍の時の屏風

素性法師

<sup>抄</sup> 春の日のあけぬるを 野に出づるを 約の者

源重之

春の日のあけぬるを 野に出づるを 約の者

平家朝臣

初 春よりわらわらつた雪をさきこころの雪とて思ふ  
はらふまゝの雪の合り

みゆか

春の初よりわらわらつた雪をさきこころの雪とて思ふ  
題ありゆき ゆきをさきこころの雪とて思ふ

わらわらつた雪をさきこころの雪とて思ふ  
天曆十年二月廿九日由裏哥合り

中納言朝忠 おとせ

雪の初よりわらわらつた雪をさきこころの雪とて思ふ  
とて思ふ雪の合り

大伴家持

雪の初よりわらわらつた雪をさきこころの雪とて思ふ  
題ありゆき ゆきをさきこころの雪とて思ふ

梅の花よりわらわらつた雪をさきこころの雪とて思ふ  
延喜時宣旨よりわらわらつた雪の合り

同清時屏風 みゆか

梅の花よりわらわらつた雪をさきこころの雪とて思ふ  
冷泉院清時屏風の末に梅の花よりわらわらつた雪の合り

さいむらふ

平島殿

わがをこの梅のま枝ひをいじりしあはれは

舟院屏風ふねいんびやうぶ 三つ枝

鳥紋をあて雁おさきし梅の花あはれは

しづかりしとゆえに舟院屏風ふねいんびやうぶ

ほいゆか

島あつらふをいじりしあはれは

新あらたらるゝ 人丸

はすはすすいいふふれれししああははれれははああははれれはは

仙伝せんでん右大臣の屏風びやうぶ

貫之

野多のたききふふれれつつああははれれはは

日ひののああははれれはは 園い軒けん院いんのの製せい

シ羅上 春の野はるののああははれれはは

新あらたらるゝ 大伴家持

春の野はるののああははれれはは

おはまおはまささららるるああははれれはは

おはまおはまささららるるああははれれはは

ああははれれははああははれれはは

いついつももああははれれはは

梅の香あけくは風の清きよき日よふは

歌 一 六 子み孫

孫のしづく野鳥よまねのよせくせはなほ一何とじら

入道式部式部はみみろ子日一何とじら

大中臣能宣

ちよせまてかむら松と常春の君もせぬも代わて

延喜寺時の屏風よまねかむら梅の花よ

取 一 梅書

梅の香もくらむとくひのそらよまよししづくはあそ

歌 一 六 子み孫

つたはらひののりたぐくはるあすの野はらあわ

梅の花もくみしよあともくしつらあつるあはれ

神千九さくくつらあはれくはのよはひらく梅の花

兵部千九の元良親王

らうまんとたよまてくつら梅の花のよは風のそらあ

みみ孫

吹風よあめひさし梅の花よあつる時よあはれよあ

大中臣能宣

白くよせまてくしづくの風よあつるあはれよあ

子み孫

こもすれ風のしおをま柳のうしろかきそ風うらら

屏風

大中臣法直

地くこ我らうららほまほの波をぶの急うらうらそまを結

歌うらら

凡河内躬恒

ま柳をねいのうらうらまわあまふたあまふたまのうら

よえんあら

れみまじまじうらまをま柳のうらうらまをうら

うらうらまわうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あ

申務

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

題

春野うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

天曆九年丙寅年合

よえんあら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

歌

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

菅家万葉集の中

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

歌

よえんあら

少

昔時栄ふ世の雪をたふす方みねつとまはく梅のわき  
天曆中時藤景殿為御中將更初奇色  
ゆづりよ  
清原元輔

昔時栄ふ世の雪をたふす方みねつとまはく梅のわき  
平さゆ梅の家の奇合り

平さゆ梅

春さゆ梅のわき  
賀正屏風  
藤原景

春さゆ梅のわき  
天曆中時藤景  
平さゆ

春さゆ梅のわき  
在原元方

春さゆ梅のわき  
兼平中年中宮の御中將更初奇色

兼平中將

春さゆ梅のわき  
宰相中將敦忠初任家屏風

宰相中將

春さゆ梅のわき  
秋院屏風  
平さゆ



らわは... 坂あり... の... 余...  
題一らん

ありあり... ありあり...  
りし... 余

さふ... ありあり...  
園... 時... 屏風...  
平... 盛

むら... ありあり...  
題一らん

ありあり... ありあり...  
ありあり... ありあり...

抄中... 義... 藤原長...  
ゆ... 藤原長...

ありあり... ありあり...  
ありあり... ありあり...

ありあり... ありあり...  
ありあり... ありあり...

ありあり... ありあり...  
ありあり... ありあり...

ありあり... ありあり...  
ありあり... ありあり...

ありあり... ありあり...  
ありあり... ありあり...





花よみならむらるる常は捨くまはれぬたはよのむらるる  
国三月ゆけあつことわよ

兄に孫

つ孫むらとのいまのわりのあまきよたのあまのあつことわ  
わうすむらるる

拾遺和歌集卷第二

夏

天曆神時乃奇合よ

大中臣能宣

かくおのまうこまのひのし蝉れぬのうすこあつことわ

屏風

あつことわ

我者けしむらやまはつことわらん夏来はむらとむらるる

冷泉院乃あまよたりまうくつすむらるる

ゆへまらねあつことわ

源重之





ついでに... 天曆時歌合

天曆時歌合

坂上聖城

警... 平惠盛

平惠盛

み... 寛和二年

寛和二年

右大將道徳母

歌... 女...

女...

海上是則

天曆時歌合

天曆時歌合

王生忠見

伊珠

伊珠

伊珠

源公忠

源公忠

源公忠

つゝとていふはなほの郭より  
敷き初は長家乃屏風

つゝとていふ

いふはなほの郭より  
延長時哥合

いふはなほ

月夜はなほの郭より  
屏風

大中長能宣

昨日はなほの郭より  
歌

きみれはなほの郭より  
延長能宣

延長能宣

きみれはなほの郭より  
延長能宣

延長能宣

たつ袖はなほの郭より  
天橋時屏風

たつ袖

延長能宣

あまのこはなほの郭より  
小野大長家能宣



郭公のいふはつておるは

~~~~~

かゝるいふはつておるはつておるはつておるは

~~~~~

~~~~~

郭公のいふはつておるはつておるはつておるは

~~~~~

~~~~~

郭公のいふはつておるはつておるはつておるは

~~~~~

~~~~~

大伴坂上郎女

郭公のいふはつておるはつておるはつておるは

中務

~~~~~

~~~~~

延喜中時中宮哥合

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

藤原實長

あつちのついでに  
大和  
あつちのついでに  
採橋

あつちのついでに  
よみかた

あつちのついでに  
あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに

源順

あつちのついでに  
あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに

平為盛

あつちのついでに  
あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに  
あつちのついでに

あつちのついでに

松のまろつと針れ水汲じとひねるす方ひねりのい  
葉よまらぬと侍々まらぬとて一と後人乃うわはつ  
りける 伊珠

ういへおはらぬとまらぬとちちあはれとていひ  
舞一ら次 一人あまらぬと

ういへおはらぬとまらぬとちちあはれとていひ  
藤原長徳

はらぬおはらぬと神とともあはれとていひ  
とる人志す次

みらせとわらぬとまらぬとちちあはれとていひ  
乃落さす

右大将定國軍千賀の由とて屏風とて  
はらぬとまらぬと ときみね

おはらぬとまらぬとちちあはれとていひ  
あはれとまらぬと

拾遺和歌集卷第三

秋

秋の夕べの光り

出雲守

秋の夕べの光り  
秋の夕べの光り  
秋の夕べの光り

秋の夕べの光り  
秋の夕べの光り  
秋の夕べの光り

ついで

秋の夕べの光り  
秋の夕べの光り  
秋の夕べの光り

河原院よてあまきあつちし種あつちしあ致  
人こぞ入侍らふよ 惠慶法師

百<sup>カ</sup>ひじくまのまらやとれまひまよ今をみね新は  
題あつち 安貴王

秋<sup>カ</sup>立てつこしあねこ乃新あつち風は  
延喜寺時以屏風

乞<sup>カ</sup>ふせむは侍るの新せよ我らあつち  
つゆあ

精風よ新あつちの川せよ海のそらあつち

新あつち 柿中あつち

何<sup>カ</sup>れは新あつちあつちあつちあつち  
夫何<sup>カ</sup>そつちあつちあつちあつち  
あつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつち  
湯原

あつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつち  
延喜寺時以屏風



かきむしりあはれしつるはたわくあはれむ  
題一ら次 一人あはれむ

あはれむしつるはたわくあはれむ  
源次前載しりあはれむ  
藤原長能

日くしあはれむあはれむあはれむ  
八月あはれむあはれむ  
惠慶法師

秋乃祭しあはれむあはれむ  
齋院屏風よ 一人あはれむ

あはれむあはれむあはれむ  
題一ら次

あはれむあはれむあはれむ  
紀貫之

あはれむあはれむあはれむ  
陽成院屏風よ一人あはれむ

あはれむあはれむあはれむ  
真子院あはれむ一人あはれむ  
あはれむあはれむ

行珠





あふきのまぢはゆくとくはくせむかへうみあけの泉  
延喜浄時八月十五夜花女所のをたかへ  
月乃えんくはちりり

藤原経良

あめくまをけさ妹乃月をれんまぢいけり  
たけしつ時心屏風よ

又山孫

いほあまをいの月乃女をさしあぬふあぢぢ  
題しつ  
秋乃月くいはるあまきあひはせ

か孫とわ

廣義の家とてまじりてられ出たつ歌と  
らん侍らる

藤原為頼

あつらひのけりしまの孫とての草履のた  
茶哉とまじりてあらはる

侍孫

あつらひのけりしまの孫とての草履のた  
屏風よ

つと孫

あつらひのけりしまの孫とての草履のた  
あつらひのけりしまの孫とての草履のた  
あつらひのけりしまの孫とての草履のた

みゆの祿

露草くち我らりいひぬれぬもあつていぬん秋秋花  
亭子院中屏風よ

伊勢

ふらふら事ふ行も秋ふぬれぬりあつていぬん  
三束乃ささ女あふぬもあつていぬん屏風よ

九月九日所

りすす

我らぬきくありら露ふもあつていぬん

歌一ら歌

みゆぬ

あつていぬん

右大将定園家屏風よ

あつていぬ

らあつていぬ  
延長清時所屏風

あつていぬ

風ふじまのあつていぬ

三百六十首中よ 曾孫好忠

神あつていぬ

歌一ら歌

大申長徳宣

あつていぬ

みちせの常盤の海もよじ藤の松もよじ松もよじ  
よかん金もよ

輝風ホトタケのらりくもよじたるもよの松の兼乃もよの白松に  
わさせ候うして物うたせいたのいよあはれ候ん  
もいもよんて侍るみらう作保也りい  
月印もよもあも何いよ霧乃いんらもいん  
侍るれ  
惠慶法師

紅紫人よもよら我もあねもあひの川わららぬ  
りら紫もよもいんあはれなるもよもあはれ  
りら紫もよもいんあはれなるもよもあはれ

大井河うらうらもよあていんも人侍るふ  
らもよ

お松を成字も其松もいねもよもらわ若者よも  
松務乃きももく行もよ松乃みら松乃あもつらわ  
大井河うらもあ松のりらもよん

健守法師

もあもあみら松もよもいんも松乃渡もよ松  
西文大長家の屏風もあもあ松の山もよも  
もあもあもあもあもあもあもあもあもあ

源光朝

後...の...  
東...  
...

惠慶法師

明...  
天曆...  
...

源光朝

之祖不見  
大藏が補云明文

校...  
...

...

法橋觀教

法天僧都 延暦寺

...

惠慶法師

...

新しうて 久しう

そふんをいふは乃山をいふは乃山にのちをいふ

延喜寺時中帝屏風

ちるのまをみからと林務のつとくをいふ

あつらふ 僧正遍昭

秋芳あつらふ時中帝屏風のまをいふ

つとく

秋のあまをいふは乃山をいふは乃山にのちをいふ

乃山をいふは乃山をいふは乃山にのちをいふ

乃山をいふは乃山をいふは乃山にのちをいふ

乃山をいふ 右衛門督公任

秋のあまをいふは乃山をいふは乃山にのちをいふ

乃山をいふ

林務あまをいふは乃山をいふは乃山にのちをいふ

乃山をいふ

乃山をいふ

乃山をいふは乃山をいふは乃山にのちをいふ

乃山をいふ

乃山をいふは乃山をいふは乃山にのちをいふ

乃山をいふ



拾遺和歌集卷第四

冬

延喜時時内侍乃うまに賀の屏風り

紀貫之

わぬ乃お記りりわきほまを紅糸にうまわらわ

寛和二年清涼殿けしりし河海を糸

一人念ふ歌

何れ木よのまつわぬあし記日成てくまのね徳わ

時ぬ一侍る日 つく撫ふ

あことしきく歌を成あまつ思ひもわ神あいの杜

たつら原

續今言る歌

神育時ぬ志ねじくまのんれくまの孫志くまの

奈良良みと龍田川は紅糸流流りし乃あわ

ら流りりしつらつら

柿葉丸

らうみからあふれあひのむしれ山まきれは

らあはらあらみからとえはく

偶正通昭

あしあ枝まじりるをねらねらあねらあ

延喜時時内侍乃うまの家なる屏風り

つゆふ

あはれつゆふをみまらるる様はたのしみなりけり

屏風

平巻

時勢今いかになりとて我々金糸から成る御袖を

百首御の中火

徳重

わが衣もあはれとてまらるる御袖をいかに

御

いかに

昔は孫のつゆふをみまらるる御袖をいかに

よ久金糸

つゆふをみまらるる御袖をいかに

ツ

あはれつゆふをみまらるる御袖をいかに

水

あはれつゆふをみまらるる御袖をいかに

あはれつゆふをみまらるる御袖をいかに

いかに

あはれつゆふをみまらるる御袖をいかに

御

右巻

あはれつゆふをみまらるる御袖をいかに

平巻

あはれつゆふをみまらるる御袖をいかに

紀友則

朱



さかきとての明を風じふ池のこわあそはる  
ふん金次郎

あふふの物成冬に雲のちわの袖物うそふ  
屏風  
平徳盛

かつふあふのまじりてはまきとてふの物成  
新次郎  
ふん金次郎

あふふのちね水家へ風はる水瀧ふあそはる  
恒徳公家へ屏風  
ふん金次郎

あふふのちね水家へ風はる水瀧ふあそはる  
ふん金次郎

あふふのちね水家へ風はる水瀧ふあそはる  
紀友則

あふふのちね水家へ風はる水瀧ふあそはる  
ふん金次郎

あふふのちね水家へ風はる水瀧ふあそはる  
廣義公家障子よりしす巻

あふふのちね水家へ風はる水瀧ふあそはる  
新次郎  
ふん金次郎

あふふのちね水家へ風はる水瀧ふあそはる  
あふふのちね水家へ風はる水瀧ふあそはる

月夜みありあり 惠慶法師

わが故郷を念ひ無き世にふらふらむも ありあけの月

と川雪とよみ歎 徳景明

歌を思ひしるるる川雪を思ひぬふしあもきぬん

ぬ成しついでなるるる川雪を思ひぬふしあもきぬん

と川雪を思ひぬふしあもきぬん

と川雪を思ひぬふしあもきぬん

わが故郷を念ひ無き世にふらふらむも ありあけの月

と川雪を思ひぬふしあもきぬん

伊豫

わが故郷を念ひ無き世にふらふらむも ありあけの月

秋院乃屏風 貫之

と川雪を思ひぬふしあもきぬん

と川雪を思ひぬふしあもきぬん

わが故郷を念ひ無き世にふらふらむも ありあけの月

屏風乃末より一の白おのふしあもきぬん

藤原佐忠羽衣 佐藤上右牛井 式部輔尹

わが故郷を念ひ無き世にふらふらむも ありあけの月

歌一らす 中々見

わが故郷を念ひ無き世にふらふらむも ありあけの月







よる人下す

かき寄るはしとむとじつららむせのきりたけの敷り  
贈身者との由の古書と古部（いみじう）の抄本  
みこりきりたけつとてぬれしはしとむ  
つとむるなる  
清忠元物

藤氏の（いみじう）ぬをよむかあり  
藤氏（いみじう）のぬをよむかあり

らるぬ

もいぬわたりとむとぬれしはしとむ  
らるぬ

君うんがぬぬとむらるぬらるぬ

右大将藤原實資（いみじう）の七郎（いみじう）

平う孫とむ

あつたぬらるぬと成るぬらるぬ  
あつたぬらるぬと成るぬらるぬ

らるぬ

らるぬと成るぬらるぬと成るぬらるぬ  
藤原誠信（いみじう）元勝（いみじう）の七郎（いみじう）

徳順

あつたぬらるぬと成るぬらるぬと成るぬらるぬ

みちの風けきりかきりし時

うのあ

おのころのけしきに  
天曆のみと  
階ては金泥壽命  
いふまゝのり  
まゝのり  
まゝのり

うのあ

おのころのけしきに

おのころ

仲英法師

おのころのけしきに  
兼平四年申吉賀

おのころのけしきに

おのころのけしきに  
おのころのけしきに

大申長頼基

おのころのけしきに  
清慎云

おのころのけしきに

君を成何よきとてふはめは海も人頼もあはれ  
よ柳舟にわらふとてあはれとてあはれとてあはれ

あはれとてあはれ

子者よきとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
ねの人の七平あはれとてあはれとてあはれとてあはれ

あはれとてあはれ

君を成何よきとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
くわあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
一傑極政中將よはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

小野好古朝臣

嗚呼よあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
指中納言敷忠母のあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

徳公忠朝臣

美代とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
五糸の侍乃とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

屏風  
伊珠

美代とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
美の好代とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
天徳三年の裏とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ





春議伊衛

こう新くやり事とせむつるを成るるの成の神其ふく

天曆神時前裁のえんせき抄録のり時

小部書大政大臣

美代あつたぬ花乃ちまれのついでに好者かきうじ

廣義の家よそんくし哥のせむるらうじ

らぬのうらぬまうりて歌々

平る威

子せよそまじしんまかにもあつたむれにれ歌をわつじ

在大臣徳れむ光孝子段のり家よ前裁合一のりあ

よけいといとむねわらうらぬれをひす

ゆらうらとわらうらにわけてゆらうらぬらう抄

とらうら

せうらぬれ歌うらみじりあらうらうらなる海州

天曆神時清博の海州をうらうらうら

ゆらぬ

あつたしん福をうらうら海州の海州をわらうらん物

あつたしん福をうらうらうらうらうら

伊豫

子せよそまじしんまかにもあつたむれにれ歌をわつじ



わつをとりて 常福れり

病のつとむるに 天曆津時小貳命

天曆津時小貳命 命を奉るるに

たぐん所より 饑をせ給ふ

とて 津敷

まの家のらるるに 命を奉るるに

命を奉るるに 命を奉るるに

早のつとむるに 命を奉るるに

わねのつとむるに 命を奉るるに

命を奉るるに 命を奉るるに

天曆津時九月十六日

津敷

君代よ 命を奉るるに

十月のつとむるに

命を奉るるに

命を奉るるに 命を奉るるに

命を奉るるに 命を奉るるに

命を奉るるに

命を奉るるに 命を奉るるに

命を奉るるに





つらき御心もかゝりてはなほ御心なほわたくしにありて  
源弘景とてはなほ御心なほわたくしにありて

三條太皇太后宮

きひのちかたはなほ御心なほわたくしにありて  
橘公頼師よとてはなほ御心なほわたくしにありて  
継母の侍れとてはなほ御心なほわたくしにありて  
うへよ飛入る侍れとてはなほ御心なほわたくしにありて

しんぎ

ちかたはなほ御心なほわたくしにありて  
新らうす

とてはなほ御心なほわたくしにありて  
らうす

はなほ御心なほわたくしにありて  
わたくしにありて  
みらうす  
はなほ御心なほわたくしにありて

戒秀法師

元浦子

藤原のまゝにありてはなほ御心なほわたくしにありて

くわらあははのあはしくよはるるよははれあ  
じきしはるる  
藤原清和

あふあふのまらちちしんさうのまらあふ  
肥後守より清原元輔へはるるよは海  
仲をんしはるるよはるるあふ

しんさう

あふあふのまらちちしんさうのまらあふ  
や  
源満仲朝臣

あふあふのまらちちしんさうのまらあふ  
あふあふのまらちちしんさうのまらあふ  
あふあふのまらちちしんさうのまらあふ

あふあふのまらちちしんさうのまらあふ

右末門

源兼澄母

あふあふのまらちちしんさうのまらあふ  
あふあふのまらちちしんさうのまらあふ

まら

攝侍平

あふあふのまらちちしんさうのまらあふ  
隆興守より清原元輔へはるるよは海  
あふあふのまらちちしんさうのまらあふ

藤原為頼

あふあふのまらちちしんさうのまらあふ



みらぬくまの白河開あり侍計あり

平甚威

なわわらふて都つたあふじさきつ川の雲あふぬ

長徳元年五月十日陰曆五月廿六日辛酉國解到來

實方朝臣みらぬくまの侍計あり

くはつらふて 右衛門督公任

一説、本地新  
一説、朝下  
シクモ

わの心の本はくまのまのあふぬ教の教の

題きつて 一欠く

接ゆり袖うぬれらあふぬの心の本はくまの

恒徳公愛れ侍あり

あはれとも

あはれともあはれともあはれともあはれとも

あはれともあはれともあはれともあはれとも

あはれとも

あはれともあはれともあはれともあはれとも

あはれともあはれともあはれともあはれとも

あはれともあはれともあはれともあはれとも

伊珠

郭公孫のあはれともあはれともあはれともあはれとも

物あはれともあはれともあはれともあはれとも

あはれとも

草よりよむのこゝろはなほおもひたれぬ  
新しき歌 よみかた

君代のこゝろはなほおもひたれぬ  
源公貞の大隅のゆかりのこゝろはなほおもひたれぬ  
よみかた よみかた

平道盛

らるる藤原のこゝろはなほおもひたれぬ  
秋のこゝろはなほおもひたれぬ

よみかた

よみかた よみかた

けしき けしき

重久

弘治の草花のこゝろはなほおもひたれぬ

伸伊周のこゝろはなほおもひたれぬ  
御堂園白の館の後回三三三の神

よみかた よみかた

思ひなまのこゝろはなほおもひたれぬ  
あつたけのこゝろはなほおもひたれぬ

贈太政大臣兼

君よりよむのこゝろはなほおもひたれぬ  
あつたけのこゝろはなほおもひたれぬ

よみかた よみかた

あはれなるものぞ

仁明天皇御時人  
和歌年表卷第六

浪の心もあはれなるものぞ

海ノ浪ノ心

あはれなるものぞ

とて

人丸入唐事此奇外乎之亦見  
但上台夏唯の任也  
但是柳中人丸ニアラス日名ノ人

拾遺和歌集卷第七

物名

紅梅

よえん

あはれなるものぞ

花乃ちあはれなるものぞ

いよあま

藤原とけい

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ





あまのついでにわがわが海へ行くもあまのついでに  
うらたて

今宵あまのついでにわがわが海へ行くもあまのついでに  
ついでに

わがわが海へ行くもあまのついでに  
在原業平朝臣

はるばるあまのついでにわがわが海へ行くもあまのついでに  
あまのついでに

あまのついでにわがわが海へ行くもあまのついでに

あまのついでにわがわが海へ行くもあまのついでに

あまのついでにわがわが海へ行くもあまのついでに

あまのついでにわがわが海へ行くもあまのついでに

伏見石見守

あまのついでに



くきくら

おあつらひの久きとみからあまのいづからあつらひの久き

こころ

那夜みまのまのいづらあつらひの久きとみからあつらひの久き

うわ

ソラニメスハ  
ミツクニミツク

高島相如

ステコロ  
ユキ

あつらひの久きとみからあつらひの久きとみからあつらひの久き

き

雄

すま

あつらひの久きとみからあつらひの久きとみからあつらひの久き

あつらひ

雄

あつらひの久きとみからあつらひの久きとみからあつらひの久き

あつらひ 鳥ノ名

あつらひの久きとみからあつらひの久きとみからあつらひの久き

あつらひ

大伴黒直

あつらひの久きとみからあつらひの久きとみからあつらひの久き

あつらひの久きとみからあつらひの久きとみからあつらひの久き

あつらひ

すま

あつらひの久きとみからあつらひの久きとみからあつらひの久き

あつらひ

すま

あつらひの久きとみからあつらひの久きとみからあつらひの久き

あつらひ

すま

鳥ノ名









拾遺和歌集卷第八

雜上

月紙のつとく 中務御具平親王

せよあふ物ありなるとあひまはたはらふといふあふん

清慎の家屏風よ 曾三

お事わらわぬけりよとくは月紙をたねつたあひま

つとくをたねつたけりよとくは月紙をたねつた

大江為基

あひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

法師のあひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

藤原季長

藤原季長法師よ

あひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

冷泉院のあひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

あひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

藤原仲文

あひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

衆議をよとくは月紙のあひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

あひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

伊保

雲井のあひまは物事たねつたけりよとくは月紙をたねつた

五七



子孫の徳を

仁徳

善行の徳を

中務

仁徳の子

君の家臣として世に徳を立たせしむるは

徳の源

ついで

徳の源を立たせしむるは徳の源

延喜十三年齊院清房國司格

とあり

流方平記のいふところをいふは徳の源

大覚寺上人の徳をいふは徳の源

たき徳をいふは

右衛門督

徳の源をいふは徳の源

徳の源

足利孫

徳の源をいふは徳の源

野宮

親子

徳の源をいふは徳の源

徳の源をいふは徳の源

徳の源

徳の源をいふは徳の源

天曆神時名あり行ふ風をいふは徳の源

くまのこゝろをいふもたのこゝろをいふ

忠見

新井の松よまをいふらあはれ海をいふ

延長寺時屏風よ

あつちの松よまをいふ海をいふ

江戸時大井よ新をいふ

よまをいふ

大井川の松よまをいふ新をいふ

行者よまをいふ江戸時新をいふ

よまをいふ

新井の松よまをいふ

又練の西侍ののこゝろ新井の松よ

ひつちの松よ 伊豫

海よまをいふ松よまをいふ

物よまをいふ江戸時新をいふ

よまをいふ

あつち

新井の松よまをいふ

新井の松よまをいふ

江戸時大井よ新をいふ

賀正 麻子

階麻子

わいしつしむはたふらふか  
あはらふくふくふくふくふく  
ふくふくふくふくふくふく

ふくふくふくふくふくふく  
河倉院の古松はふくふくふく

徳道詩

の清なる水はあはらふくふく  
ふくふくふくふくふくふく

昔とふかふかふかふかふか  
ふくふくふくふくふくふく  
あはらふくふくふくふくふく

はつゆふ

あはらふくふくふくふくふく  
あはらふくふくふくふくふく

源為憲

あはらふくふくふくふくふく  
あはらふくふくふくふくふく

あはらふくふくふくふくふく  
あはらふくふくふくふくふく  
あはらふくふくふくふくふく  
あはらふくふくふくふくふく  
あはらふくふくふくふくふく

右大将海時



何れもいふまじくしれどもいふまじくいふまじくいふまじく  
天清淨時亦屏風乃るまじくいふまじくいふまじく  
らぬいふまじくいふまじくいふまじく

藤原きよき

わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
大に為基つていふまじくいふまじくいふまじく  
みづつそつそつそつそつそつそつそつそつそつそつ

一見今もいふ

宗重といふまじくいふまじくいふまじくいふまじく  
そつそつそつそつそつそつそつそつそつそつ

物ついでいふまじくいふまじくいふまじくいふまじく

百番

このまじくいふまじくいふまじくいふまじく

いふまじくいふまじくいふまじくいふまじく

いふまじくいふまじく

いふまじくいふまじくいふまじくいふまじく

清填の月林寺よつていふまじくいふまじく

いふまじくいふまじく 藤原きよき

昔わがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
菅原の大長いふまじくいふまじくいふまじく  
いふまじく



くちり

ら海を渡るはつらつとて  
くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり

くちり

わらわは海を渡るはつらつとて  
物にゆかりなきはつらつとて  
くちりくちりくちりくちり

くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり

くちり

三輪の山を登りて  
對する守をよの  
くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり

諫天

くちり

くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり

くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり  
くちりくちりくちりくちり

山吹のうらみ

万葉集  
神のうらみ

蘇葉

万七  
伊弉諾のうらみ

新ら歌

今昔のうらみ

伊弉諾のうらみ

今昔

万葉集  
鳴呼見海トアリ  
スレハアミノミトヨク  
玉母ホミハフミノ海トアリ  
然レ鳴呼シメトハハサハアト一字ニヨロシ

天曆十一年九月十五日并之

日

神歌

伊弉諾のうらみ

天曆三年 為古事

天曆十一年九月十五日并之

天曆十一年九月十五日并之

伊弉諾のうらみ

伊弉諾のうらみ

今昔

万七  
伊弉諾のうらみ

冷泉院 安和三年上（山崎） 陽平（山崎）

小原左大臣（山崎）のあつた後乃家よの  
つねのついでとさうの

小野左大臣（山崎） 安和三年（山崎） 七十一卷

まのついでとさうのあつた後乃家よの

なまのついでとさうのあつた後乃家よの（山崎）

のついでとさうのあつた後乃家よの（山崎）

愛宕（山崎） 九条右府才女母河とさう

まのついでとさうのあつた後乃家よの

大貳園章（山崎）のあつた後乃家よの

のついでとさうのあつた後乃家よの

山崎

乃家よのあつた後乃家よの

乃家よのあつた後乃家よの

乃家よのあつた後乃家よの

乃家よのあつた後乃家よの

乃家よのあつた後乃家よの

乃家よのあつた後乃家よの

神明寺（山崎）のあつた後乃家よの

乃家よのあつた後乃家よの

乃家よのあつた後乃家よの

二葉右大臣ツチノミナ長作伯清サキノシとありしこと  
正せ給ふらむとらうじ事ゆらあるか  
さわきりしちよとよんゆらむ

眼の涙のつゆまじりるにけり  
加藤 明 一ゆらわらむとらうじ事ゆらあるか  
ゆらとまき

うねまのあはれをてかきとらわらむ  
ゆらとまきとらうじ事ゆらあるか  
よあせむらむとらうじ事

源景明

よの命とて母の心は  
新らひ 一丸とて  
帯にぬめりてえりぬらわらむ  
あはれとてえりぬらわらむ  
おとけりかぬとてえりぬらわらむ  
ねとらひぬらわらむ

あはれとてえりぬらわらむ  
釋迦(三) 答

拾遺和歌集卷第九

雜下

あらし野子春秋の山もさすはらさくを給ふら  
まをくはらわらる 紀貫之

恙悔まきひそねくまの川はまのまはらふら  
元良<sup>セウ</sup>好<sup>キヤウ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>ら<sup>ラ</sup>ふ<sup>フ</sup>ら<sup>ラ</sup>ふ<sup>フ</sup>  
まはらさくひのり給いあふまはらふら  
まはらさくひのり給いあふまはらふら  
まはらさくひのり給いあふまはらふら

あらし野子春秋の山もさすはらさくを給ふら





しんがわりの集まるといふ事なれどもいふ事なれども

又云

あつた

かまふまゝの事なれどもいふ事なれどもいふ事なれども

あつた

見ゆ

しんがわりの集まるといふ事なれどもいふ事なれども

又云

伊衛

らひらひらとくさくさといふ事なれどもいふ事なれども

あつた

みゆ

結ぶと云ふ事なれどもいふ事なれどもいふ事なれども

舞合の事なれどもいふ事なれどもいふ事なれども

一見金

あつた事なれどもいふ事なれどもいふ事なれども

いふ事なれどもいふ事なれども

草合の事なれどもいふ事なれども

あつた事なれどもいふ事なれどもいふ事なれども

あつた事なれどもいふ事なれども

あつた事なれども

あつた事なれどもいふ事なれどもいふ事なれども

あつた事なれども

あつた事なれども

あつた事なれどもいふ事なれどもいふ事なれども

健守法師傳者乃のう（たけまも）ふのわりの  
（野伏） 修行在  
るわりのは

總経房別長

西宮大正男母愛宮

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

也（たけまも）健守法師

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

屏風は法師乃あまのわりのまはりまはり

在大將道徳母

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり  
（法）  
あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり  
（たけまも）乃あまのわりのまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり  
（たけまも）乃あまのわりのまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

あまのふりまはりまはりまはりまはりまはり

かしよものくくゆけりかもの見えゆへに  
あきぬらふとてあそびしおのむくゆへに

伊豫

うめはえをみよむ川のせわさしわめ引風は  
能宣車のか<sup>種</sup>とあひまひうてゆへに  
ゆすといふてゆへに

藤原仲文

かたさへもとくあをたかかきとまき日影は  
ゆへに  
あかいたむじがしあかたきむじまもそいふゆへに

唐義公家のか<sup>海</sup>とありわたりゆへに  
うん<sup>毛</sup>たきむじまゆへに

惠慶法師

なよぬゆへに風あめゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに

まき

難波のまきゆへに  
はり園まきゆへに  
まきゆへに  
なまゆへに





予等へあつたるにせしめしとて

御制

あつたるにせしめしとて  
田代馬場より若大将實澄より  
あつたるにせしめしとて  
物おしむるにせしめしとて

小野文太政大臣

あつたるにせしめしとて  
あつたるにせしめしとて

あつたるにせしめしとて

あつたるにせしめしとて

あつたるにせしめしとて

あつたるにせしめしとて  
あつたるにせしめしとて  
あつたるにせしめしとて

あつたるにせしめしとて  
あつたるにせしめしとて  
あつたるにせしめしとて

あつたるにせしめしとて

也

らぬ所をいふは、  
みらぬ所をいふは、  
さういふは、

ちり

のQちり

みらぬ所をいふは、

廣義に愛れかし、

あつていふは、  
藤原為頼

ぬまのあつていふは、  
あつていふは、

あつていふは、  
あつていふは、  
あつていふは、  
あつていふは、

ちり

あつていふは、  
大隅守とて、  
あつていふは、  
あつていふは、

おとろくおろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

旋頭弁

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

抄むらり

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

何ぞ

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく

おとろくおとろくおとろくおとろく  
おとろくおとろくおとろくおとろく







何れもこの物ついでに汁を煮のひてあま  
ゆきまじりありてせしむこゝにてゆらぎ  
ゆきれあるなる かんきく

いんちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ

うらなひのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ  
あつちやくしんちやくのひとぬきまじりあまゆ

考軒院神持大納言のてらう

詮子園院之后 二全院母后

とうせきをゆるぐ 東三條大政大臣

兼定

天曆才五皇子

天德三年正月親王

あつれいしんがのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

康保元年四月中宮太子山内四等五月村上崩

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

跋祚日天武天皇

天禄元年正月

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意

あまのしんがりのひーのまをみわんかちの教行の意



拾遺和歌集卷第十

神樂歌

こと木葉を換りてはまゝに世お祓の事なりとの心  
 けりたのう返りてはまゝに世お祓の事なりとの心  
 みくらぬれまゝ物取に社入りてはまゝに世お祓の事なりとの心  
 君くらぬれまゝお祓の事なりとの心  
 何さう返りてはまゝに世お祓の事なりとの心  
 おもひのたゞはまゝに世お祓の事なりとの心  
 おもひのたゞはまゝに世お祓の事なりとの心  
 ちるう祓の事なりとの心

秋ハイノ秋ソ天ニ  
 三ニミヤ中娘宮ノ秋

天宮ノ祓ノ心

我々もなやまの多んはまゝに世お祓の事なりとの心  
 子ナ秋ノ心  
 先人多(棒上五ノ秋)  
 負者の事もせき神物也は祓の事なりとの心  
 わるい心はまゝに世お祓の事なりとの心  
 左宮坊持高の遠望はまゝに世お祓の事なりとの心  
 ねまゝに世お祓の事なりとの心  
 乃あまの心はまゝに世お祓の事なりとの心  
 久ねの心はまゝに世お祓の事なりとの心  
 ぬれまゝに世お祓の事なりとの心

神のついでにまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

惠慶法師

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

實之

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

元補

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

僧都實因

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

恒徳の安障子 源重澄

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

平祐奉

あつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひのまはるはあつたつらふゆいひ

新しう

くま

三ノタメ

ららゆきつたさくらおらさるるたかひのりくは  
ふり振神はなひのわらぬさくらさくらさくらさくら

安和元年大嘗會風俗のよし

大中臣能直

君代のあはれおののわらわのいもさるるおのの

はらのあはれおののわらわのいもさるるおのの

うきうき

うきうき

うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき

うきうき

うきうき

ららゆきつたさくらおらさるるたかひのりくは

續命の酒

美代のあはれおののわらわのいもさるるおのの

うきうき

美代のあはれおののわらわのいもさるるおのの

うきうき

うきうき

美代のあはれおののわらわのいもさるるおのの

うきうき

うきうき

美代のあはれおののわらわのいもさるるおのの

うきうき

うきうき



尺の記号をもちきりかきしるはむすははむす

松のまじり 清原元捕

子母物松のまじりまじりまじりまじりまじりまじり

おのれ<sup>世に</sup>行<sup>世に</sup>まじりまじり

まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

天禄元年大嘗に云風俗<sup>世に</sup>終<sup>世に</sup>出

まじり

あつらひらむせうまじりまじりまじりまじり

おまじり<sup>世に</sup>まじり<sup>世に</sup>まじり

あつらひらむせうまじりまじりまじりまじり

みるまじり まじり

あつらひらむせうまじりまじりまじりまじり

あつらひらむせうまじりまじりまじりまじり

あつらひらむせう 申務

あつらひらむせうまじりまじりまじりまじり

あつらひらむせう<sup>世に</sup>まじり<sup>世に</sup>

あつらひらむせう<sup>世に</sup>まじり<sup>世に</sup>まじり

あつらひらむせう

あつらひらむせうまじりまじりまじりまじり

のり

つらなるもろなるはらなる  
おのり

病乃し松さくたふあふらなる  
延長元年八月廿五日民部卿清世貴より平賀中

細言恒作書一のり

所乃し

つら梅書

是のり

そい

く

万七

大己

おのり

延喜廿二年

く

藤原忠房

る

おのり



